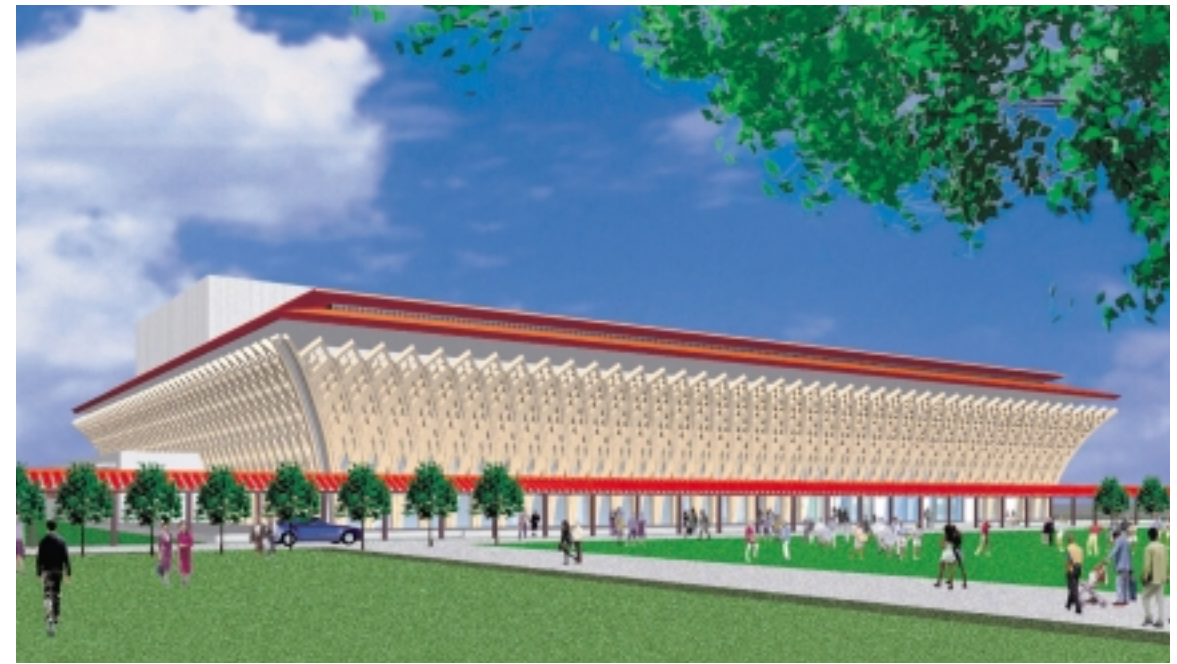


国立組踊劇場(仮称) の概要

沖縄伝統芸能の保存振興と伝統文化を通じたアジア・太平洋地域の交流を目指して



外観イメージパース(南東面)

1 はじめに

一七九九年琉球王府の踊奉行玉城朝薫により誕生した組踊は、一九七二年に国の重要無形文化財に指定されましたが、組踊をはじめとする沖縄の伝統芸能の正統な継承・伝承者養成、組織的な記録保存や調査研究等を実施する施設がないことから、沖縄県及び地元関係者から建設要望がなされました。

国立組踊劇場(仮称、以下同じ)は沖縄政策協議会において沖縄振興策のプロジェクトとして位置付けられ、文化庁は、平成九年度から国立組踊劇場の在り方に関する調査研究協力者会議、十年度から国立組踊劇場設立準備調査会、座長 川口幹夫氏(NHK顧問)を設立し、国立組踊劇場の在り方について具体的な検討を進めました。

沖縄開発庁は、平成九年度に国立組踊劇場の設立を沖縄振興策として位置づけ、十年度には基本設計費を予算計上し、これを受けて沖縄総合事務局では公募型プロポーザル方式で設計者を選定し、十年七月、高

松伸建築設計事務所が国立組踊劇場の基本設計業務を委託しました。平成十一年度には実施設計費を予算計上し、十一年七月、沖縄総合事務局では、高松伸建築設計事務所が実施設計業務を委託しました。この度、実施設計がまとまりましたので、その概要を報告します。今後は平成十五年の開場を目指して建設工事を進めて行く予定です。

2 施設概要

- (1) 建設場所
沖縄県浦添市小湾(こわん)地区
- (2) 敷地面積
約二五〇〇〇㎡(予定)
- (3) 構造・規模
鉄筋コンクリート造、一部プレストレストコンクリート造地下二階地上三階建 延べ面積約四、〇〇〇㎡
- (4) 設計
株 高松伸建築設計事務所
- (5) 予定工期
平成十二年十一月～十五年三月

3 設計概要

この劇場は、国の重要無形文化財「組踊」を中心とする沖縄伝統芸能の保存振興を図るとともに、沖縄の地理的・歴史的特性を活かし、伝統文化を通じたアジア・太平洋地域の交流の拠点となることを目的としています。

(1) 設計趣旨
沖縄において、独自に発展・継承



メインホールイメージパース(オープンステージ時)

(2) 施設計画

（外構計画）
劇場の正面を南東向きとして

されてきた組踊を中心とする伝統芸能の殿堂として、伝統芸能の公開・伝承者養成調査研究、普及啓発等のための諸施設を計画しています。また、沖縄の歴史や風土に根ざした伝統的建築様式のみならず、積極的に継承すると同時に、現代の建築に必要とされる機能や経済性を十分に検討し、現代的な建築的な佇まいへと昇華することで、懐かしくそして新しい沖縄建築を創造します。



配置図(概略図)



案内図

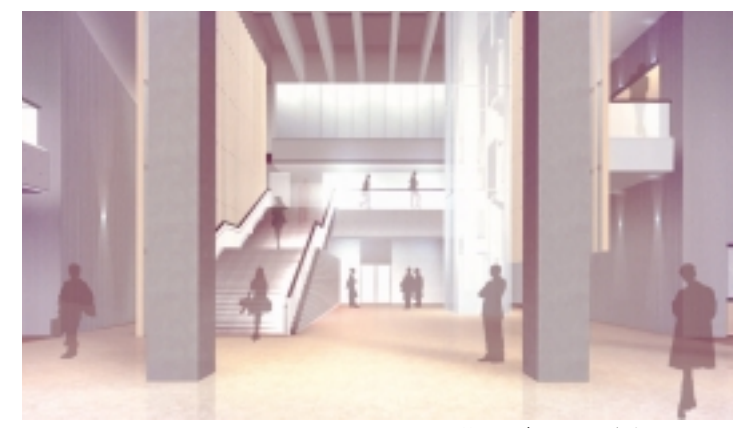
配置し、正面には野外芸能空間を、また沖縄の交通事情に配慮し可能な限り駐車場を確保しています。敷地周辺は、浦添市においてこの劇場の整備に合わせて、公園・街路等の整備を計画しています。劇場を中心とした体的な新しい地区景観の形成に向け計画を進めています。

(平面計画)

一階には、メインホール、研修ホールの公開関係、舞台・楽屋関係、二階は普及啓発関係施設、三階は養成研修・稽古場関係、調査研究関係等の諸室を配置します。

(意匠計画)

外観は、琉球王朝時代の家屋や祭祀建築(神あしやぎ)に見られる形態をモチーフとし、「雨端」(あまはし)と呼ばれる大きな庇の張



共通ロビーイメージパース(正面)

り出しとその軒下空間からなる沖縄独特の構成をデザイン化しています。

庇部分の屋根仕上げは、琉球瓦を耐久性、施工性の高いPCC(プレキャストコンクリート)ユニット工法で施工します。

外壁部分は、琉球王朝時代の家屋の外壁に使われていた網代(あじろ)状の竹組みの意匠をイメージさせる斜交格子とし、日差しを和らげたり、風を通したり、視線を通す等、環境を建築的にコントロールしています。外壁部分の仕上げは、庇同様、PCCユニット工法で

4 劇場施設概要

(1) オープンステージ(注1)とプロセニアムステージ(注2)の両機能を備えた可変式舞台)

- ・舞台
プロセニアム開口幅
一四・五四m(八間)
- ・プロセニアム開口高さ
五・四五m(三間)～七・二七m(七間)(可変)
- ・奥行き
二一・〇六m(十間四尺)
- ・客席数
オープンステージ時
五七八席
プロセニアムステージ時
六三四席
- ・花道設置時
五八一席
- ・舞台機構
回り舞台 (大迫り、小迫り)



共通ロビーイメージパース(ホワイエ)

- (2) 研修ホール
・舞台
プロセニアム開口幅
二一・二〇m(六間四尺)
- ・プロセニアム開口高さ
六・三〇m(三間三尺)
- ・奥行き
九・二五m(五間二尺)
- ・客席数
一五三席

(注1) オープンステージ：舞台が客席の中に張り出した形式で、緞帳などの幕を使用しない。
(注2) プロセニアムステージ：今日の劇場ホールで一般的に見られる、舞台と客席との間に額縁状の枠を持った形式で、緞帳などの幕を用いる。